

ぼうさい

DISASTER MANAGEMENT NEWS

平成 24 年

春 号

2012 No. 66



特集

家族で防災

Active Human

フラガール

[スパリゾートハワイアンズ・
ダンシングチーム]



内閣府（防災担当）
Cabinet Office, Government of Japan

日本の火山

Vol. 21

大分県

くじゅうさん

九重山

九州の屋根



九重山に咲くミヤマキリシマ

大分県西部に位置する九重山は、20以上の山々が東西約15kmにかけて広がる火山群で、くじゅう連山ともいう。九州本島で最高峰の中岳なかだけ(1791m)はじめ、久住山くじゅうさん、大船山たいせんざん、三俣山みまたやま、星生山ほっしょうざんなど、1700m級の山々を有し、「九州の屋根」と呼ばれている。約5千年前から、約千年間隔で噴火を繰り返し、約1700年前の大規模なマグマ噴火では、火砕流が火口から約4km、溶岩流は火口から約2kmまで到達した。有史以降は、1662年、1675年、1738年などの噴火記録が残っている。近年では、1995年に星生山の北東側にある通称「硫黄山」付近で約300年ぶりの噴火があり、降灰は隣県の熊本市でも観測された。九重山とその周辺地域は、湿原や湖沼など多様な自然の景観に恵まれ、また、随所で温泉が湧出している。九重山西部では、この火山のエネルギーを活用した地熱発電所も稼働中だ。5月下旬から6月中旬頃、山々はミヤマキリシマのピンクの花に覆われる。この花は、九州の標高の高い火山地域に生息するツツジの一種で、国の天然記念物に指定されている。

九重山

活動的火山及び潜在的爆発活力を有する火山に指定されている。平成19年12月1日に噴火予報を「噴火警戒レベル1、平常」と発表。その後、予報警報事項に変更はない(2月2日現在)。

CONTENTS

- 2 日本の火山 Vol. 21
九重山（大分県）
- 4 特集
家族で防災
- 12 Disaster Management News——防災の動き
・防災基本計画の修正
・平成23年度政府総合図上訓練
・1.17 防災未来賞
「ぼうさい甲子園」の取り組み
・「2011年度防災教育チャレンジ
プラン活動報告会」の開催
・共助による地域防災活動報告会
～みんなで“防災”を語ろう～
- 16 Disaster Report——災害報告
・今冬期の大雪等による
被害状況等について
- 17 防災Q & A
東日本大震災から1年になります。
被災地が必要とする支援活動は
なんですか？
危機管理教育研究所 危機管理アドバイザー
国崎 信江
一日前プロジェクト 第21回
- 18 Active Human List 9
フラガール [スパリゾートハワイアンズ・
ダンシングチーム]
- 20 防災リーダーと地域の輪 第10回
未来の町に虹の橋を架ける子どもたち
福島県相馬市川原町児童センター「みつばち・かもめ防災
探検隊」
第8回「小学生のぼうさい探検隊
マップコンクール・表彰式」
- 22 Disaster Management News——防災の動き
・「第27回防災ポスターコンクール」
受賞作品決定



第27回 防災ポスターコンクール 防災担当大臣賞

小学5・6年生の部
長野県 山ノ内町立東小学校 6年
福澤 有紗（ふくざわ ありさ）さん

受賞者の声

私の防災ポスターが大臣賞に決まったと聞いて、はじめは半信半疑でした。まさか夢にも思わなかったことでビックリしましたが、とてもうれしいです。ありがとうございました。

今年は東日本大震災があり、たくさんの人々が被災されました。私はその時家にいましたが、私の家も揺れて怖かったことを覚えています。その後ニュースを見て、被害の大きさを知りました。東日本大震災は、私たちみんなにとって忘れられない出来事になったと思います。けれどこれから先、未来の人たちはこのことを忘れて、知らないで大きくなっていくかも知れません。私たちが体験したこの出来事をポスターに描くことで、「こんな大きな災害があったんだ」という事を知らせたい、忘れてほしくないと思いました。

このポスターでこの大きな災害を忘れず、一人でも多くの人が普段から地震や津波にそなえることができたならうれしいなと思います。



本物そっくりの地震の揺れを体験できる本所防災館の地震体験コーナー
(本所防災館 提供)

家族で防災

家族で防災会議 していますか

まずは、自宅の防災対策について家族で相談しながら総点検してみましよう。

安否確認

災害発生時、お互いの安否確認や連絡方法を決めていきますか？

災害は、家族が揃っているとき

学校や企業における防災教育や防災対策の見直し・強化が活発に行われています。では、家庭における防災対策はどうでしょうか？ご自宅で災害に備えた対策をとっていますか？その情報は家族で共有されていますか？

災害が来てからでは遅い。日頃から、災害が起きた時にどのように行動するかを家族で決めておきましょう。

に発生するとは限りません。自宅、学校、職場、出張先等、家族が離れ離れの状態で被災する可能性があります。

地震などの災害発生時には、被災地への通話が集中し、個人の安否確認だけでなく、消防、警察への連絡などにも支障が起きます。

総務省の発表によると、3月11日の東日本大震災発生直後も、携帯電話事業者によっては平常時の50〜60倍以上の通話が一時的に集中するなど、長時間にわたり電話が非常につながりにくい状態が続きました。

この日、首都圏では大量の帰宅困難者が発生し、翌日まで自宅に帰れない人が大勢いました。内閣府の推計では、その数約515万人。家族の安否が確認できないままでは、不安な時間を過ごすことになります。

災害発生時の安否確認や連絡には、次の方法が利用できます。

三角連絡法

離れた場所に住む家族や親戚、知人の家を連絡先に決め、そこを中継点にして家族の安否確認や連絡をとる方法です。これは、携帯電話やメールを使わない方にも活

用いただける方法です。

災害用伝言サービス

大規模災害発生時には、通信事業者から3種類の「災害用伝言サービス」が提供されます。

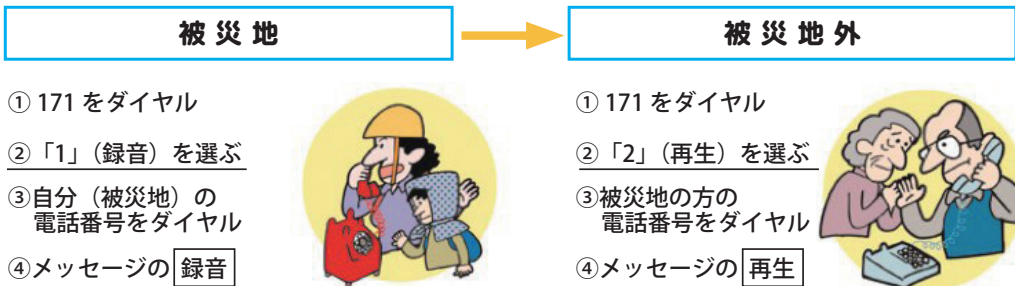
災害用伝言サービス

災害用伝言サービスの体験利用

「正月三が日」、「毎月1日」、「防災週間<8月30日~9月5日>」、「防災とボランティア週間<1月15日~21日>」は、災害用伝言サービスの体験利用ができます。

「災害用伝言ダイヤル171」(固定電話)の利用方法

例：被災地から録音し、被災地外で聞く場合



「災害用伝言ダイヤル171」は、まず被災地内の固定電話からの利用が優先されます。被災地外から及び携帯電話からの利用は、段階的に可能となります。

※「災害用伝言ダイヤル171」、「災害用ブロードバンド伝言板(web171)」の利用方法については、NTT東日本、NTT西日本のホームページで、また、「災害用伝言板」の利用方法については携帯電話、PHS各社ホームページで詳細をご確認いただけます。

参考：「災害時の電話利用方法」(社)電気通信事業者協会：
<http://www.tca.or.jp/infomation/disaster.html>

固定電話で「171」をダイヤルすれば安否等の伝言を録音、確認できる「災害用伝言ダイヤル(171)」のほか、携帯電話やPHS等による「災害用伝言板」、インターネットを使った「災害用

ブロードバンド伝言板(web171)があります。これらのサービスは、年に数回の体験利用期間が設けられています。是非実際に使ってみましょう。

避難場所

災害発生時の避難場所を知っていますか？

日頃から、自宅、学校、職場の近くや、通勤通学途中にある避難場所を確認しておきましょう。

市町村が発行している防災マップでの確認も有効です。街中には「災害時一時集合場所」や「避難場所」等の標識があります。家族で街歩きをしながら、自宅近くの防災備蓄倉庫や消火栓など、災害発生時に役立つ設備の場所も合

わせて探してみたいかがでしょうか。

緊急地震速報

緊急地震速報を見聞きしたら、どのように行動しますか？

緊急地震速報は、最大震度5弱以上と予想された地震の場合、テレビ、ラジオ、携帯電話などを通じてチャイム音やブザー音とともに、強い揺れが予想されていることを知らせます。

緊急地震速報から強い揺れが到達するまでの猶予時間は、数秒から数十秒程度です。まわりの人も声をかけながら、身の安全を確保しましょう。

家庭では、頭を保護し、丈夫な机の下などの安全な場所に避難する、あわてて外に飛び出さない、無理に火を消そうとしないなど、台所、リビング、寝室、それぞれの場所での何をすべきかを考えてみましょう。

内閣府のウェブサイト「防災シミュレーター」では、緊急地震速報を見聞きしてからの行動がシミュレーションできます。

内閣府「防災シミュレーター」
<http://www.bousai.go.jp/simulator/index.html>

地震の揺れで棚から飛び出し、周囲に散乱した食器や調理器具



家具固定していたが、役に立たなかった実例

自宅の耐震

災害発生時には、まず命を守る
ことが重要です。

自宅が地震が発生した場合、あなたの家庭は安全ですか？

家の耐震化や家具固定などの対策を行い、自宅の安全環境づくりを行いましょう。

昭和56（1981）年に建築物の新耐震基準が施行され、住宅の建物の強さを決める基準は大きく変わりました。この年以降に建て

昭和56（1981）年より前に建てられた住宅

専門家の耐震診断を受け、その結果に応じた補強を行いましょう。

昭和56（1981）年以降に建てられた住宅

新しい耐震基準に基づいて作られた建物であっても、建物が全く壊れないということではありません。年月の経過とともに住宅も変化します。点検・整備をこまめに行いましょう。

られているどうか、自分の家の強度を知るひとつの手がかりとなります。

耐震診断・改修

多くの自治体で、耐震診断や耐震改修工事の費用の助成や、耐震診断を行う会社の紹介を行っています。まずは市区町村の防災担当課や住宅建築課などに問い合わせてみましょう。

経済的な備え

耐震性が十分な建物でも、非常に大きな地震の発生や、隣接する建物の倒壊に巻き込まれるなど、被害を受ける可能性はゼロではありません。

万が一、被災した場合の住宅再建・補修や生活再建には資金が必要で、地震保険や地震の際に支払が受けられる共済への加入など、経済的な備えについても日頃から家族で話し合っておきましょう。

家具の配置と固定

東京都防災会議の「首都圏直下地震による被害想定」（平成18年）によると、約16万人の想定負傷者のうち34.2%（約5万4千5百人）



強力な粘着テープがついたベルトで家具固定

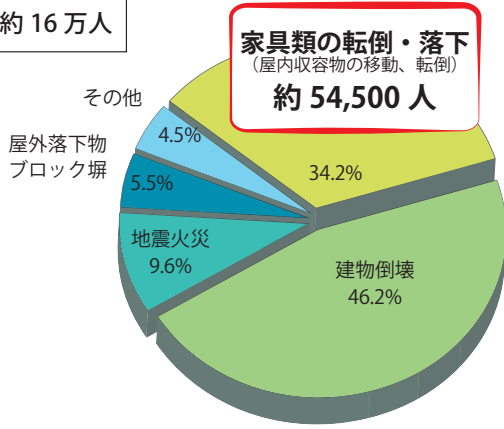


上下に分かれた家具を連結

が家具類の転倒・落下によって負傷するとされています。また実際には、近年発生した大きな地震では、

首都直下地震による東京の被害想定

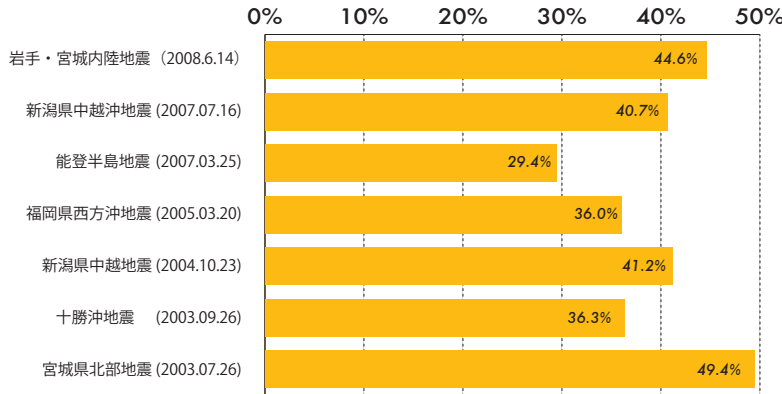
負傷者：約 16 万人



※東京湾北部地震 (M7.3 冬の夕方 18 時) の負傷者 (都内全域)
参考「首都直下地震による東京の被害想定」(平成 18 年 5 月東京都防災会議)

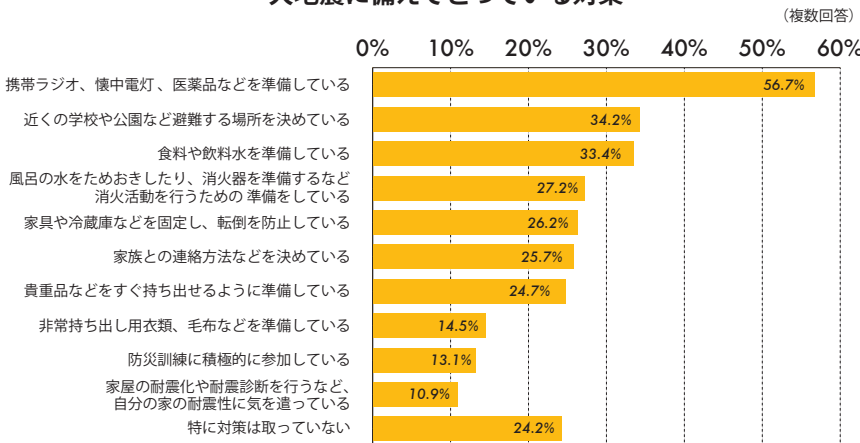
怪我をした原因の約 30〜50%が家具類の転倒・落下によるものでした。
家具類の転倒・落下は、直接当たって怪我をするだけでなく、つまづいて転ぶ、割れた食器やガラスを踏む、避難通路をふさぐなど、様々な危険をもたらします。
「大地震では、家具は必ず倒れるもの」と考えて、日頃から家具の固定や配置の見直しで、室内に安全空間をつくるようにしておきましょう。

近年発生した地震における家具類の転倒・落下が原因のけが人の割合



参考 東京消防庁：家具類の転倒・落下防止対策ハンドブック (平成 22 年 8 月)

大地震に備えてとっている対策



内閣府：「防災に関する特別世論調査」(平成 22 年)

家具が倒れたときに、寝ている人、座っている人に直撃しないように、また出入り口をふさがないようにする等

家具の向きを考えて配置

家具の固定は、「正しく」行わ

家具固定器具

家具固定器具には、金具と家具と壁を直接固定する L 字金具のほか、ベルトタイプ等もあります。

主なメーカーの冷蔵庫等の後ろ側の上部には、ベルト取り付け口や取っ手があるので確認してみましょう。また、強力な粘着テープで貼り付けられるベルトもあります。

二段重ねの家具類は、連結金具等で上下を連結しておきましょう。

家具と壁を直接固定できない場合などは、天井と家具の間に設置

安全空間づくりのポイント

●家具を置かない
寝室、子ども部屋、居間など、家族が長時間過ごす部屋にはできるだけ家具を置かない

家具部屋を作る、作りつけの家具を使う、背の低い家具だけを置く等

●家具を置く場合は、固定して転倒防止

正しく家具固定

家具の固定は、「正しく」行わ

家具が倒れたときに、寝ている人、座っている人に直撃しないように、また出入り口をふさがないようにする等

適切な家具固定の器具を選んで正しく取り付けましょう。家具類の固定については、自治体や消防署でも相談を受け付けています。

する。ポール式器具(つっぱり棒)と、家具と床の間に挟んで家具を壁側に傾斜させるストッパー式器具等、二つ以上の器具を組み合わせると効果が高くなります。

地震の激しい揺れで棚から飛び出した食器や割れたガラスは凶器になります。食器棚の開き戸は、開かないように扉開放防止器具(開き扉ストッパー)などの止め金を付けたら、ガラス部分にはガラス飛散防止フィルムを貼るなどの対応を行いましょう。

家具固定器具購入費の助成を行っている市町村もあります。また、消防庁や市町村等のウェブサイトで、家具固定の方法や器具の種類などを紹介しているところもありますので参照してみましよう。

防災用品の備え

水、電気、ガスなどのライフラインが停止した場合に備えて、自宅に水や食料、生活用品は備えておきたいものです。また、災害のために自宅周辺が危険と判断されると、急いで安全な場所への避難が必要になる場合もありますので、非常持ち出し品もリュックなどに

詰めて準備しておきましょう。

常に準備しておきたいもの

速やかな避難のために、必要なものは家庭に常備しておきたいものです。

例えば、運動靴。割れた窓ガラスや食器が床一面に広がっていたら、素足ではとても歩けません。その他、ライト、革手袋、レインコートなども有効です。

非常持ち出し品

「すぐに必要になるもの」、「なければ困るもの」は何ですか？

常備薬や入れ歯、補聴器など、家族にとって必要なものは何かを考えて用意しましょう。

備蓄品

できるだけ、普段の生活に組み込んで、平時に無意

識に更新できるものでまかないましょう。

安価でどこでも入手しやすいもの。例えば、ティッシュペーパーやトイレットペーパー、ラップ、大型ゴミ袋、ペットボトル入りの水などは、ある程度の量を蓄えて順々に古いほうから使い、日常生活で買いきましよう。



非常持ち出し品の一例



備蓄品の一例

(浅山美鈴 撮影)

外出時の携帯品

道を歩いているとき、エレベーターに乗っているときなど、自宅以外で災害に遭遇する可能性もあります。普段からバッグの中などに急場をしのげる防災グッズを携帯しましょう。

自分の身元がわかるカード、自分の病名や処方薬を書いたメモや診察券、状況を把握するためのラジオ、閉じ込められたときのため

防災チェックリスト一例

安否・避難確認

- 家族の安否確認の方法を話し合っている
- 自宅からの避難場所を確認している
- 会社や学校など外出先からの避難場所を確認している
- 避難場所までの経路を確認している

住宅の耐震性

- 家の耐震診断を受けた
- 家の耐震改修をした

家具の固定など

- 家具は倒れないように固定されている
- 家具の上に危険なものを置かないようにしている
- 寝る場所の近くには、倒れてきそうな家具はない
- 万が一、家具が倒れても部屋の出口はふさがれない
- ガラス付きの家具には、ガラス飛散防止フィルムを貼っている
- 食器棚等の観音開きの扉には、止め金をつけている

非常持ち出し品一例

- 飲料水
- 食品
- 貴重品（預金通帳、印鑑、現金）
- 救急用品
- 軍手
- 懐中電灯
- 下着
- 予備電池
- ろうそく、マッチ（火をつけるもの）
- ウェットティッシュ

外出時に携帯したいもの一例

- 身元や連絡先のわかるカードなど
- 病院の診察券、病名・処方薬を書いたメモなど
- 携帯ラジオ（状況を把握するため）
- メモ帳・筆記用具
- 笛
- 水
- チョコレートなど（閉じ込められたときの食料）
- ハンカチなど（口を覆うためなど）

※非常持ち出し品、外出時の携帯品には、あなたや家族にとって必要な「なければ困る」ものを入れましょう

市街地を実物大のジオラマの中で体験できる施設もあります。防災館や防災センターのほとんどが無料で利用できる公共施設です。ガイドによる解説付き体験ツアーを実施している施設もあります。ツアー参加には事前の予約が必要な場合があります。まず、各防災館・防災センターに問い合わせてみましょう。

のチョコレートなどの食料やハンカチなど、できるだけ負担にならずに携帯できるものがよいでしょう。バッグ等に入れっぱなしで気軽に持ち歩けることがポイントです。

昨年度、平成22年9月号「ぼうさい」の特集でも、非常持ち出し品、備蓄品、外出時の携帯品についてご紹介しています。内閣府防災担

当のホームページでもご確認いただけます。

防災を学びに出かけよう

頭ではわかっていても、いざという時、急には体が動かなかったという経験は誰しもあること。日

頃から、災害が発生したらどのように行動すべきかをイメージし、実際に身体を動かして身を守る行動を練習してみることは非常に有効です。

最近、地域の防災訓練に参加しましたか？ 場所によって災害の種類や被害状況も異なります。地域の防災訓練に参加して、それぞれの場所が必要となる防災の知恵

や備えを学びましょう。各地で開催されている防災関連のイベントでは、起震車体験や消火訓練など様々な体験や情報収集ができます。

また、全国にある防災館や防災センターなら、いつでも気軽に防災を学ぶことができます。様々な疑似災害体験コーナーや映像シアター、中には大地震後の



「東京直下 72h TOUR」～ 72 時間をどう生き残るか

公的機関などによる組織的な救助活動が行われるのは、地震発生約 72 時間後とされています。「東京直下 72h TOUR」は、首都直下地震の発災から避難までの一連の流れを体験しながら、救助が困難な、この 72 時間を生き残るためのヒントを見つける体験学習ツアーです。



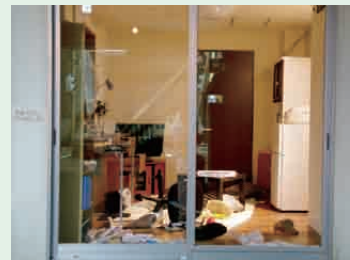
大震災後の被災市街地ジオラマ

携帯型ゲーム機から出題されるクイズで注意事項を確認しながら、停電で薄暗い被災市街地の中を通り抜けて避難場所へ向かいます。倒れかかった電信柱や落下したエアコンの室外機など、よく見ると様々な危険箇所が見つかります。



避難場所

避難場所では、防災倉庫の中身や、車用のカバーシートで作った簡易テント、ペットボトルを使ったテーブルや椅子なども展示されています。身近なものの活用方法など、緊急時を生き抜く様々なヒントを確認しておきましょう。



正しい家具固定をした室内（上）と、していない室内（右）の様子も比較してみましょう。

そなエリア東京

東京・有明の東京臨海広域防災公園にある防災体験学習施設が「そなエリア東京」です。「東京直下 72h TOUR」に参加できる防災体験ゾーンと、首都直下地震をわかりやすく紹介するミニシアター、世界の防災用品や防災ゲームの展示体験コーナー等がある防災学習ゾーンがあります。見学所要時間は、両ゾーン合わせて約 1 時間から 1 時間半です。また、屋上庭園や公園内の広場では軽い運動やピクニックを楽しむこともできます。

場所 : 135-0063 東京都江東区有明 3-8-35 TEL 03-3529-2180 FAX 03-3529-2188
開館時間 : 午前 9 時 30 分～午後 5 時 (入場は午後 4 時 30 分まで)
休館日 : 月曜日 (月曜日が祝日の場合は開館し、翌日休館)、年末年始および臨時休館日があります。
※個人や家族での来館の場合は、事前予約不要。

そなエリア東京 提供





施設全景



消火体験コーナー

実際の火災の様子を映し出す大型スクリーンを相手に、消火器や屋内消火栓の使い方を覚えましょう



煙体験コーナー

煙が充満して視界のきかない中を避難します。正しい避難方法を身につけ、冷静な判断力と確実な行動力を養いましょう



暴風雨体験コーナー

風水害をもたらす強風や大雨の威力を体験してみましょう



防災シアター

地震をテーマにした迫力ある映像で、その場面に遭遇した感覚を体験してみましょう



応急手当体験コーナー

人口呼吸や心臓マッサージ、またAEDの取り扱い方を学びましょう

※地震体験コーナーの写真は、P4 頁をご参照ください。

本所防災館

今年5月にオープン予定の東京スカイツリーの近くには、防災体験ツアーに参加できる本所防災館があります。

防災シアターと地震、消火、煙（または都市型水害）、応急手当（または暴風雨）の4つの体験ができる防災体験ツアー

（要電話予約）を一日4回実施。各回の所要時間は約2時間です。その他にショートコースのツアーもあります。

防災体験ツアーは予約で満員の場合があるので、事前に電話で空き状況を確認しましょう。

場所：130-0003 東京都墨田区横川4-6-6 TEL 03-3621-0119 FAX 03-3621-0116

開館時間：午前9時～午後5時

休館日：水曜日・第3木曜日（国民の祝日に当たる場合は翌日になります。）

年末年始（12月28日～1月4日）

本所防災館 提供

その他の防災館・防災センター

東京

池袋防災館（03-3590-6565）、立川防災館（042-521-1119）、消防博物館（03-3353-9119）

静岡

静岡県地震防災センター（054-251-7100）

大阪

大阪市立阿倍野防災センター（06-6643-1031）

神戸

阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター（078-262-5050）

※上記以外にも全国各地に、公共機関や民間で運営されている防災館・防災センターがあります。どのような防災学習ができるのか施設によって異なるので、事前に電話やホームページで確認してみましょう。

防災基本計画の修正

平成 23 年 12 月 27 日、内閣総理大臣官邸において中央防災会議が開催され、約 3 年 10 か月ぶりに防災基本計画が修正されました。



12月27日に野田内閣総理大臣出席のもと開催された中央防災会議の様子

今回の修正は、東日本大震災の発生後初めて行われるもので、中央防災会議に設置された「東北地方太平洋沖地震を教訓とした地震・津波対策に関する専門調査会」の最終報告（平成 23 年 9 月 28 日）を踏まえて、その提言内容を具体化することを主眼としています。

「津波災害対策編」の新設

従来、津波災害対策に関する記述は、「第 2 編震災対策編」の一部として記述されて

いましたが、東日本大震災によって明らかになったように、津波の被害や対策は、地震の揺れによるものとは大きく異なっていることから、新たな編を設けて、予防、応急対策、復旧・復興の各段階における対策を体系的に示すことが適当として、「津波災害対策編」を創設することとされました。

東日本大震災を踏まえた地震、津波対策の抜本的強化

今回の修正では、主に次のような内容について記述を充実させ、地震、津波対策の強化を図っています。

- ① あらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震・津波想定の実施
- ② 二つのレベルの想定とそれぞれの対策
 - ・ 最大クラスの津波に対する住民避難を軸とした総合的な対策
 - ・ 比較的頻度の高い津波に対する海岸保全施設等の整備
- ③ 津波に強いまちづくり
 - ・ 浸水危険性の低い地域を居住地域とする土地利用、避難場所・避難ビル等の計画的整備（津波到達時間が短い地域では、おおむね 5 分程度で避難が可能となるまちづくりを目指す）
- ④ 国民への防災知識の普及
 - ・ 強い揺れを感じた場合等、迷うことなく迅速かつ自主的に避難することなどの知識の普及
 - ・ 防災教育の実施、津波に関する教育

プログラムの開発
津波ハザードマップの整備及び住民への周知

⑤ 地震・津波に関する研究及び観測体制の充実

⑥ 津波警報等の伝達及び避難体制確保
・ 受け手の立場に立った津波警報等の発表
・ 携帯電話等、多様な手段による確実な伝達

・ 具体的かつ実践的な避難計画の策定、避難支援の行動ルール化

⑦ 地震の揺れによる被害の軽減策

- ・ 浅部地盤データの収集・データベース化等による液化化対策
- ・ 天井等の落下物対策

最近の災害等を踏まえた防災対策の見直しの反映

また、東日本大震災における教訓に加え、台風第 12 号などの最近の災害の状況や防災対策の進展を踏まえた修正を行います。

- ・ 避難場所等における生活環境改善や女性ニーズへの配慮
- ・ 洪水等の警報、避難勧告等に係る伝達文の工夫
- ・ 避難勧告等に資する土砂災害緊急情報（注）の市町村への提供
- ・ 実践的な避難計画の策定等、噴火時等の火山災害対策

平成23年度政府総合図上訓練

I 訓練の実施概要

平成24年1月12日に立川災害対策本部予備施設において実施した平成23年度政府総合図上訓練は、東京湾北部を震源とするM7.3の地震が発生し、埼玉県、千葉県、東京都及び神奈川県の一部3県に最大震度6強の揺れが観測され、各地に甚大な被害が発生した等の想定^(※)で、緊急災害対策本部の業務についてロールプレイング形式で行いました。

この訓練には、関係省庁、埼玉県、東京都、神奈川県、千葉県、横浜市、川崎市、千葉市、さいたま市、相模原市のほか、DMA T事務局、指定公共機関（東日本旅客鉄道株式会社、日本電信電話株式会社、郵便局株式会社、日本通運株式会社）も参加しました（約200名）。

II 図上訓練の進め方

訓練を統括するコントローラーが付与す



調整会議の様子



オペレーションルームでの訓練の様子

る具体的な各種の状況（救助・救急、部隊・物資等の輸送調整、物資の調達、帰宅困難者等に関する状況）に対応して問題を解決するため、訓練対象者（プレイヤー）自身が、情報の収集、状況判断、対応策等の検討を行い、その業務遂行能力の向上を図るとともに、関係機関との連携等に関する検証を実施しました。

III 大規模災害発生時の対応

首都直下地震等の大規模な自然災害が発生し、緊急災害対策本部設置の方針の決定が行われたときは、内閣総理大臣を本部長として全閣僚で構成される緊急災害対策本部を設置し、政府の総力を挙げて被災地の支援に取り組みます。

緊急災害対策本部は、原則として官邸内に設置されますが、官邸が被災により使用不能である場合には内閣府（中央合同庁舎5号館）内、内閣府（中央合同庁舎5号館）が被災により使用不能である場合には

防衛省（中央指揮所）

内、防衛省（中央指揮所）が被災により使用不能である場合には立川広

域防災基地（災害対策本部予備施設）内に設置されます。

IV 今後の課題

今回の訓練で得た貴重な成果を整理し、政府の緊急災害対策本部としての体制、業務手順の要領等に具体的に反映させるとともに、本部署員の災害対応能力の向上に努め、いざというときの備えに万全を尽くしていくこととします。

※本訓練では、官邸が被災により使用不能となるなど、東日本大震災での教訓を踏まえ、「想定を超える被害」を意図的にシナリオに盛り込むとともに、訓練の臨場感を高めるために実在する建物の倒壊等を状況としておりますが、これら想定外の被害は、科学的根拠によるものではなく、決して事態の蓋然性に基づくものではありません。



全体調整会議

1.17 防災未来賞 「ぼうさい甲子園」の取り組み

兵庫県では、阪神・淡路大震災の経験を通して学んだ自然の脅威や生命の尊さ、共に生きることの大切さを考える防災教育を推進し、未来に向けて安全で安心な社会をつくるため、子どもや学生が学校や地域で主体的に取り組んでいる防災活動を顕彰する事業を毎日新聞社及び(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構との共催により実施しています。



東日本大震災後の意識調査に取り組む生徒ら

した。生徒は「意識調査をしたことで、津波に対する自分たちの意識も高まった」と胸を張る。

8年目となる今年度は、小・中・高・大学の4部門に計92団体の応募があり、東日本大震災で被災した学校の取り組みや被災地の支援活動などの特別賞を含む、27団体が受賞。そのうち、グランプリやぼうさい大賞、優秀賞に輝いた団体など12団体が1月に神戸で開催した発表会で活動内容などを報告しました。

【グランプリ】
「意識調査で地域住民の避難促す」
徳島市津田中学校(徳島県)

史上初の2年連続グランプリとなった。平成17年度から地域と一体となった防災教育・活動が続けてきた。今年は3年生30人が夏休みを使い、海沿いの地区に住む人たちの東日本大震災後の意識を調べた。調査では、戸別訪問や街頭での聞き取りなどによって約2000人分もの住民らの声を集め、約1カ月かけて分析した。震災直後、地区には大津波警報に伴う避難勧告が出されたが、約8割の人が避難していなかったことや避難場所の整備が進んでいないことが判明。まとめた結果は校区内に配るとともに、生徒代表が10月、市役所を訪ね、住民の要望の多かった避難場所整備を市の担当者に直接、要望



自宅周辺の児童らを使い、地図を確認する

【ぼうさい大賞】
「『防災の日』の学習で震災後も命を守る」
釜石市立釜石小学校(岩手県)

東日本大震災が起きた3月11日にちなみ、7月から毎月11日を「釜小防災の日」と決めた。避難訓練や講話などを通じ、防災や命の大切さについて「一緒に考えていこう」と取り組み始めた。

平成20年度から防災教育を始めた。高台にあるため、津波の際は校外に児童がいる時の安全確保が課題として、下校途中に地震が起きたと想定した避難訓練を繰り返し、通学路の安全マップを作った。3月11日は短縮授業で午後1時過ぎには児童は下校を始めており、184人の全校児童のうち、校内に残っていたのは6年生10人。残りは自宅や友人の家にいたり、海のそばで釣りをしていたりしたが、全員高台に避難するなどして無事だった。2学期以降、地震や津波を想定した避難訓練も実施。夏休み中は、今住んでいる場所の周辺の安全マップを作る宿題に取り組んだ。

【ぼうさい大賞】
「命つないだ平時の学び」
釜石市立釜石東中学校(岩手県)

東日本大震災の津波で校舎3階まで浸水したが、生徒は隣接の小学校児童を連れて高台へと無事に避難した。普段から▽「自分



お年寄りらと交流する施設で、紙を折り、福社とす

の命を自分で守る」
▽「助けられる人から助ける人になる」
▽津波から逃げるための言い伝え「てんでんこ」の継承を目標に活動してきた。非常時の確かな行動が、津波防災について学んできたことの成果として注目された。

震災後、他校に間借りして授業を受けながら、地域の高齢者を訪問、花を植えるなどの活動に取り組む。生徒らは「世界中から助けてもらった私たちができるのは、体験を広く伝えること」と各地の防災フォーラムなどに積極的に参加し、被災体験や避難について発言している。

【ぼうさい大賞】
「クイズでダンスで、多彩に防災」

愛知県立日進高等学校(愛知県)

子ども向けの防災ダンスや紙芝居を作ったり、「大震災が起きたら」という設定で映画を作ったり、木材を使って非常時にトイレとしても使えるベンチを作るなど、学校全体の取り組みとして防災に取り組んだ。東海地震で被害が想定される地域にあり、各学年が多彩な取り組みを展開した。地域と一体となった活動は年々活発化している。



「洪水の市進市」に参加した。ゆるキャラの作り手、市民

日進市の市民まつりにもブースを出し、防災の取り組みを紹介するビデオを流し、ベンチを展示した。

「2011年度防災教育チャレンジプラン活動報告会」の開催

2月11日に、有明の丘基幹的広域防災拠点施設（東京都江東区有明）において「2011年度防災教育チャレンジプラン活動報告会」が開催されました。

防災教育チャレンジプランは、いつやってくるかわからない災害に備え大切な命を守り、できるだけ被害を減らし、万が一被害があった時すぐに立ち直る力を一人一人が身につけるため、全国の地域や学校で防災教育を推進するためのプランです。

東日本大震災以降、防災教育・減災教育に対する関心が高まっており、当日は、会場が満席となる盛況の中、1年間活動を実践した団体等の取組成果等が報告され、2011年度の実践団体のうち、特に優秀な成果をあげたプランに左記の各賞が授与されました。



報告会参加者の集合写真

- 復興教育特別大賞（震災を受け、今年度特別に設定。以下の3団体）
 - ・釜石市立釜石東中学校「EAST-レスキュー」
 - ・南三陸町立歌津中学校「地域を愛し、南三陸の防災を担う歌中生～「結いっこ」の精神を生かして～」
 - ・宮城県大河原町立金ヶ瀬中学校「学校と地域が協働する防災対策活動プラン」
 - 防災教育大賞
 - ・愛知県立半田商業高等学校「レスキューハイスクール。育み隊！」
 - 防災教育優秀賞（以下の2団体）
 - ・高津養護学校 たかつ地域推進ネットワーク会議「たかつ 地域との協働による障がい者・高齢者等要援護者支援のための防災訓練シミュレーション訓練」
 - ・「やさしい日本語」有志の会「「やさしい日本語」から防災教育へ」
 - 防災教育特別賞（以下の2団体）
 - ・千葉県立東金支援学校「防災発信・防災交流 ～北之幸谷から二市四町へ～」
 - ・糸魚川市立根知小学校「根知小発！ジオパークの大自然と向き合う地域防災教育」
- 各実践団体の取組詳細は以下のホームページをご参照下さい。
<http://www.bosai-study.net/top.html>

共助による地域防災活動報告会「みんなであら防災」を語ろう

2月19日、東京・千代田区の日本教育会館で、「共助による地域防災活動報告会「みんなであら防災」を語ろう」が開催されました。全国各地で防災活動を行っている団体が集まり、その活動を報告しあい、互いに交流する催しです。

報告会に先立ち、福和伸夫名古屋大学教授により、「過去の災害に学び地域の防災力を高めよう」と題して講演が行われました。

福和教授は、日本で過去に起きた様々な災害を紹介しながら、地域の実情を一番よく知る住民が協力し合い、防災の担い手となることが大切だと述べられました。

活動報告会では、全国各地で様々な立場から活動されている18団体が3つのグループに分かれて報告をいたしました。各団体からの報告の後、各グループのコーディネーターをされた3名の講師の方から講評をいただきました。

また、各団体の活動内容を紹介したコーナーを設けてそれぞれが意見交換や交流を行い、お互いの活動をさらに高めあう場ともなりました。



共助による地域防災活動報告会の様子

国内災害

今冬期の大雪等による
被害状況等について

昨年末から日本海側を中心として記録的な大雪となり、2月27日現在で死者111名、重傷者698名、軽傷者971名の人的被害が生じています。また、亡くなられた方の6割以上を65歳以上の方が占めるとともに、屋根の雪下ろし等除雪作業中の事故による死者や負傷者が多くなっています。

政府としては、降積雪期を迎えるにあたり、関係機関に対して防災態勢の一層の強化をお願いするなど、昨年末から対応に当たってきました。今年に入ってから、2月2日に開催した第1回大雪対策に関する閣僚会議で、野田内閣総理大臣から、政府一丸となり緊張感を持って応急対策・生活支援対策等に当たるよう指示があったことを受け、地方公共団体と連携しながら、除雪体制の確保に向けた人的・物的支援や、社会資本整備総合交付金の追加配分及び特別交付税の一部繰り上げ交付等の財政支援を講じてきました。

2月21日には、第2回大雪対策に関する関係閣僚会議を開催し、大雪に対する政府全体の対応を「平成24年大雪対策」としてとりまとめました。この中では、①除雪費用等への財政支援、②除雪体制の確保、③被災者対策・

生活支援、④中小企業者、農林水産漁業者等に対する支援、⑤ライフラインの確保、⑥警戒体制の徹底について具体的な対策を掲げ、引き続き迅速かつ的確に実施することとしています。

これに先立ち、被災地方公共団体における大雪の被害状況等を政府としてつぶさに把握するため、2月5日には平野前防災担当大臣が新潟県に、奥田国土交通副大臣が長野県に、津島国土交通大臣政務官が青森県に、同月7日には郡内閣府大臣政務官が秋田県に、同月18日には中川防災担当大臣が山形県に赴き、現地調査を行いました。現地では、地元地方公共団体の首長等と意見交換を行うとともに、被害状況を調査しました。

今冬期の大雪に対しては、引き続き「平成

農業施設等の被



山形県を訪れ、大雪による被害状況等を視察する中川防災担当大臣（左から4人目）

24年大雪対策」に基づいて、被災地方公共団体と緊密に連携しながら、政府一丸となりスピード感を持って対応してまいります。

東日本大震災から1年になります。被災地が必要とする支援活動はなんですか？

生活の自立を支援する活動が求められています。

防災 Q & A

被

被災地では「いつまでもこのままではいけない。先に進まな

くても」と多くの人がこれからの生活を考えています。被災者の方が願うのは「もとの仕事に戻りたい」ということです。やりがいのある仕事に就くことが生活の復興につながります。

支援の一つに、職場の再建資金を「一口オーナー制度」のオーナーとして支援する方法があります。資金が集まれば、被災者の方は設備を購入し従業員も雇うことが出来ます。収穫・生産できるようにしたら、オーナーには現物が



イラスト：井塚 剛

還元されるというシステムです。飯店舗で商売をする人も増えてきました。直接的な支援として、被災地に赴き被災した現状を直接見て、現地で宿泊、飲食、物産を購入することも復興を後押しします。被災地では鎮魂の祈りと復興を願う様々なイベントが企画されています。そのイベントへの参加や、事前準備の手伝い、賛助金による協力という方法があります。被災地を支援する旅、ボランティア活動と観光プランを企画している旅行会社も

ありますから、それらを利用するのも一案です。そして、被災地から遠く離れた土地で生活している方もいます。慣れた土地で孤立することなく暮らすことが出来るよう、身近にいる被災者の就職や子育てなどあらゆる面で支援する活動も大切です。

危機管理教育研究所 危機管理アドバイザー
 国崎 信江（くにさき のぶえ）
 阪神・淡路大震災を機に、女性の視点を生かして自然災害から子どもを守るための研究を始める。防災・防犯関連の著作、講演のほか、内閣府・文部科学省など多くの防災関連の専門委員も務めている。

もし、一日前に戻れたら…

シリーズ「一日前プロジェクト」第21回

平成 19 年能登半島地震（平成 19 年 3 月）

薬持ち出せず、避難場所で大弱り

～自分の薬は肌身はなさず～

(60代女性)

年寄りの人がたくさんおるでしょう。避難場所に行っても感じたのは、お年寄りはみんな常にお薬を飲んでいるから、どんなときも自分の薬は肌身はなさず持っていなければいけないということ。

夜中の2時ごろ、おばあさんが避難場所のすみでちょっと座っていたので、わけを聞くと、「リュウマチで痛くて眠られん」と言うのです。で、連絡すると、すぐにお医者さんが看護婦さんと一緒に来てくれたんです。それにはほんとうに頭が下がりましたね。

先生が「これを飲んで」と痛み止めの薬を渡していると、

それを見て「私にも薬をください」と言う人がいっぱいいました。引き出しに置いていたから、とっさに持ってきたという人が多かったですね。だから、前もって何かに分けておいて、いつでも持って逃げられるようにしておかなければいけないとつくづく思いました。



被災者の体験を聞く事ができる『一日前プロジェクト』は下記HPでも見ることが出来ます。家庭はもちろん、地域や職場等、さまざまな話が掲載されていますので、企業の「社内報」や地域での「広報」に幅広く活用してください。

<http://www.bousai.go.jp/km/imp/>

「ゴー！フラガール！」 笑顔を届けて復興支援

スパリゾートハワイアンズ・ダンシングチーム

フラガール

Active
Human

List 9



新宿にあるデパートの特設会場で開催された一般向け公演で踊るフラガール。中央は、リーダーのマルヒア由佳理さん。「マルヒア」は、ハワイ語で「平和」「平穏」を意味する。

フラガール●スパリゾートハワイアンズ専属ダンシングチーム

スパリゾートハワイアンズは、福島県いわき市にある、温水プールや温泉、ホテル等からなる大型リゾート施設。1966年、スパリゾートハワイアンズの前身となる「常磐ハワイアンセンター」がオープン。フラガールによるフラダンスやポリネシアンダンス等のステージショーは、アトラクションの目玉となり、2006年には、延べ入場者数が5,000万人を超えた。2011年、フラガールは、震災後の福島県や東北地方全体の観光復興への多大な貢献により第3回観光庁長官表彰を受賞。現在、34名のフラガールが在籍している。

2006年に大ヒットした映画「フラガール」。そのモデルとなったスパリゾートハワイアンズ専属ダンシングチームは、東日本大震災からの復興に向けて全国キャラバンを行いました。

2011年3月11日の東日本大震災の本震やその後の大きな直下型余震等により、福島県いわき市にある大型リゾート施設スパリゾートハワイアンズは、一部施設の壁に亀裂が入るなど大きな被害を受けました。

施設は休業、そしてフラガールも自宅待機を余儀なくされる中、「フラで日本中を元気に、笑顔にしたい」という想いと共に始まったのが、避難場所の慰問や全国各地で無料公演を行う「フラガール全国きずなキャラバン」でした。

46年ぶりの全国キャラバン

実は、フラガールが全国巡業を行うのは、今回が2度目です。今から47年前、スパリゾートハワイアンズの前身となる常磐ハワイアンセンターをアピールするために第1期生フラガールが全国巡業を行って以来のことでした。

キャラバン最終公演となった「いわき復興祭」のステージ（2011年10月1、2日）



きずなキャラバンは、震災から2カ月足らずの5月3日にいわき市内の避難場所慰問から始まり、福島、宮城、埼玉など各地の避難場所で、優しい音楽に合わせたフラダンスを披露しました。

『フラガールの皆さんも被災者なのに、よく頑張ってますね』、『皆さんの活動は多くの人を救っているよ』と声をかけていただいています」とリーダーのマルヒア由佳理さんは避難場所での交流について語ってくれました。



全国キャラバンの会場に設置されていたメッセージボード。観客からフラガールへの応援メッセージで埋め尽くされている

一方、一般向けの公演も、5月21日に東京・新宿にあるデパートの特設会場で初日を迎えました。

ショーの開演前、フラガールのメンバー達で考えたメッセージが読み上げられました。キャラバンを通じて全国に伝えたかったフラガールの想いです。

〈私達フラガールは元気です。今から46年前、私達の先輩である当時のフラガールが、地域や仲間とのきずなの力で、炭鉱が閉山になる危機に向かって果敢に立ち上がったように、今度は私たちが立ち上がります。日本中に笑顔、元氣、希望をお見せします。そして人と人とのきずなを深めていきたいと思っています。〉（一部抜粋）

まず自分から、笑顔に

「ゴー！フラガール！」と大きな掛け声で気合を入れたフラガールは、ステージに上がるとリズムカルなポリネシアダンスや優雅なフラダンスなどを次々と披露。華やかなショーに、超満員の会場からは、大きな拍手と声援がなかなか鳴りやみませんでした。

各地で大盛況となったキャラバンは、その後10月までの約5ヶ月間に、全国26都府県と韓国ソウル市を含めて合計125箇所ですべて247回の公演を行い、全国に笑顔と元気を届けました。

「きずなキャラバンでは、本当に温かい言葉をたくさんいただきました」とキャラバンを振り返るマルヒア由佳理さん。「各地の方々からの応援メッセージや、ダンシングチームメンバー一人一人が頑張っている姿に私自身も支えられました」

その後スパリゾートハワイアンズは、10月1日から部分営業を再開し、今年2月8日には全館オープンの日を迎えました。

フラガールも、待ちに待ったホームグラウンドでの本格

始動です。

「再スタートが切れたのは、その影に多くの方々の力があつての事だと思っています。感謝の気持ちでいっぱいです」と再開の喜びを語るマルヒア由佳理さん。

復興に向けて、フラガールはこれからも福島県いわき市から笑顔と元気を発信していきます。

「支えて下さる方、影ながら応援して下さる方が必ずいます。自分の笑顔が次へ次へとつながっていきます。被災地の皆さんも、笑顔を忘れずに一歩ずつ進んでいただければと思います」

（写真提供

スパリゾートハワイアンズ）



地元小学校6校の生徒約1,800名も招待されたスパリゾートハワイアンズのオープニングセレモニー（2012年2月8日）

未来の町に虹の橋を架ける子どもたち

東日本大震災で被災した福島県相馬市川原町児童センターの子どもたちが、災害を乗り越え、大人たちと触れ合いながら町を歩き、未来のマップを作り上げた。

東

日本大震災で被災した福島県相馬市川原町児童センターの子どもたちが、災害を乗り越え、大人たちと触れ合いながら町を歩き、未来のマップを作り上げた。

センターの永井清美さんは「被災と子どもたちの未来を考えると迷った」が、子どもたちの答えは明快だった。

「やりたい」と。

川原町児童センターは7年前の第2回コンクールから毎年参加。その間に四度の受賞があり、マップづくりはセンターの伝統となり、「3年生になったらマップを作るんだ」という子どもたちの夢になっていた。

だが、今回は参加を見おくる考えもあった。津波被害を受けた町は探検する状況ではなく、子どもたちもここらに傷を負っていたからだ。

子どもたちを指導する同セン

その美しさで知られた相馬市松川浦の風景は津波で一変。瓦礫だらけで放射能の影響の心配から海岸地区には車で出かけてインタビューした。センターからほど近い市役所でも職員の説明を聞いた。しかしマップを作るにはそれだけでは足りない。

子どもたちは第5回コンクールで審査員特別賞を受賞したマップ「つなみが来たらどこにげる？」を永井さんに見せられた。そこには高台への経路や避難場所が分かりやすくまとめられていた。



マップづくりのため、海岸地区でインタビューを行ったり、市役所で説明を受ける川原町児童センター「みつばち・かもめ防災探検隊」の子供達。(永井清美さん 提供)

第8回「小学生のぼうさい探検隊マップコンクール」防災担当
大臣賞を受賞した「みつばち・かもめ防災探検隊」の防災マップ
(社団法人 日本損害保険協会 提供)



これを参考に考え抜いてできなかった子どもたちのマップには、愛する町の防災、安全な町の未来が描かれた。

「1階から4階までがショロピングモールでその上は住宅、屋上にはヘリポートがあるビルなんて、現実的でないかもしれませんが、子どもたちは『こういう町になつたらいいなあ』ということを真剣に話し合ってくれました」と永井さんはふり返る。

7年前、同センター初のマップがコンクールで「まちのぼうさいキッズ賞」を受賞すると、マップで「ここは危険」と指摘された高

校のブロック塀が金網のフェンスに取り替えられた。子どもたちのマップが行政を動かし、高校関係者も地域の人も、子どもたちもとても喜んだ。

今回のマップにも、そうした力が秘められているかもしれない。

防災リーダーの一言

永井清美 (ながい・きよみ) ●川原町児童センター所長

幼 稚園と保育園を経営する永井清美さんは、長く防災教育の重要性を訴え活動してきた。「小さくとも自分の身は自分で守ることの大切さをしっかり教えたい。幼児期、児童期に防災教育を受けたか否かが、後々の行動に大きな違いを生む」と、早期の防災教育と継続性が重要だと語る。「地域の大人達や消防関係者を巻き込んで防災の輪を広げたい」。永井さんのこれからの課題だ。

第8回「小学生のぼうさい探検隊マップコンクール」表彰式

「ぼうさい探検隊」とは、子どもたちが楽しみながら町にある防災・防犯・交通安全に関する施設や設備を見てまわり、マップにまとめ、発表を通して学んだことを皆で共有しあう活動です。3回連続で47都道府県の全てから応募があり、過去最多となる344校・団体、1643作品が寄せられ、去る1月21日に表彰式を行いました。

マップ作りが子ども・大人・地域を育てる

ぼうさい探検隊の原点は、マップ作りを通して、子どもたちが大きく成長し、災害に強い子どもたち、未来を担う子どもたちが育つということです。また、先生や指導者、保護者・地域のみなさんにとっても、子どもたちを中心に地域を見つめ直す良い機会になると思います。

過去にぼうさい探検隊に参加した小学生が高校生になり、ボランティアとして自分の町の避難場所や活躍したり、マップによる提言で地域の危険な場所を改善しています。ぜひ、「ぼうさい探検隊」に取り組み、地域に対する愛着を深め、より安全で安心な地域にして行きましょう。

社団法人 日本損害保険協会
内藤潤 (ないとう・じゅん)



各賞の代表児童・指導者・プレゼンターの皆様での集合写真。どのお顔も、とても誇らしげです

コンクールは2012年度も開催予定です(参加申し込み: <http://www.sonpo.or.jp/>)

「第27回防災ポスターコンクール」 受賞作品決定

内

閣府では、国民一人ひとりに防災意識を高めてもらい、日頃から具体的な「備え」を実践していただく国民運動の輪を広げていくため、毎年、防災推進協議会との共催で、「防災ポスターコンクール」を実施しています。

第27回にあたる本年度は、東日本大震災をはじめ、非常に災害が多く発生したこともあり、全国から前年度よりも3千点近く多い7826点の応募をいただきました。

これらの作品の中から、予備審査、本審査を経て、「防災担当大臣賞（4作品）」、「防災推進協議会会長賞（4作品）」、「佳作（16作品）」及び「入選（236作品）」が選出されました。

1月13日の表彰式には、「防災担当大臣賞」と「防災推進協議会会長賞」の受賞



防災ポスターコンクール受賞者のみなさん

者が出席し、郡和子内閣府大臣政務官、近衛防災推進協議会会長（日本赤十字社社長）より賞状が授与されました。入賞作品は「防災週間」や「防災ポスターコンクール」

などの周知ポスターとして、また「防災フェア」などの行事で展示をするなど、防災意識の高揚、防災知識の普及・啓発を目的として様々な場面面で広く活用してまいります。

来年度も皆様からのご応募をお待ちしております。

防災担当大臣賞（4作品）

幼児・小学1～4年生の部

永畑 凜茄（ながはた りんか）さん
鹿児島県／出水市立江内小学校2年

小学5・6年生の部

福澤 有紗（ふくざわ ありさ）さん
長野県／山ノ内町立東小学校6年

中学生・高校生の部

横田 さくら（よこた さくら）さん
愛知県／だれでもアーストクラブ中学1年

一般の部

馬淵 はづき（まぶち はづき）さん
岐阜県／県立岐阜総合学園高等学校3年



郡和子内閣府大臣政務官から賞状授与

防災推進協議会会長賞（4作品）

幼児・小学1～4年生の部

三浦 友里江（みうら ゆりえ）さん
徳島県／アトリエ遠渡「高木教室」小学3年

小学5・6年生の部

吉本 美嶺（よしもと みれい）さん
徳島県／アトリエ遠渡「高木教室」小学6年

中学生・高校生の部

北條 歩（ほうじょう あゆむ）さん
栃木県／幸福の科学学園中学校2年

一般の部

松尾 みづき（まつお みづき）さん
徳島県／県立徳島科学技術高等学校3年



近衛防災推進協議会会長から賞状授与

受賞作品は次のURLからご覧いただけます。
<http://www.bousai.go.jp/gyoji/gyoji.html>

佳作（16作品）
入選（236作品）

第27回防災ポスターコンクール

防災担当大臣賞



幼児・小学1～4年生の部
鹿児島県 出水市立江内小学校 2年
永畑 凜茄さん



小学5・6年生の部
長野県 山ノ内町立東小学校 6年
福澤 有紗さん



中学生・高校生の部
愛知県 だれでもアーティストクラブ
中学1年
横田 さくらさん



一般の部
岐阜県 県立岐阜総合学園高等学校 3年
馬淵 はづきさん

防災推進協議会会長賞



幼児・小学1～4年生の部
徳島県 アトリエ遠渡「高木教室」 3年
三浦 友里江さん



小学5・6年生の部
徳島県 アトリエ遠渡「高木教室」 6年
吉本 美嶺さん



中学生・高校生の部
栃木県 幸福の科学学園中学校 2年
北條 歩さん



一般の部
徳島県 県立徳島科学技術高等学校 3年
松尾 みづきさん

『ぼうさい』春号 [No.66]

平成24年3月30日発行 [季刊]
http://www.bousai.go.jp/kouhou/

●編集・発行

内閣府 (防災担当) 災害予防参事官室
〒100-8969
東京都千代田区霞が関 1-2-2
(中央合同庁舎5号館3階)
TEL: 03-5253-2111 (大代表)
FAX: 03-3597-9091
URL: http://www.bousai.go.jp

●編集協力・デザイン

株式会社ジャパンジャーナル
〒101-0063
東京都千代田区神田淡路町 2-4-6
エフアンドエフロイヤルビル 7F
TEL: 03-5298-2111 (代表)
URL: http://www.japanjournal.jp

●印刷・製本

昭栄印刷株式会社
printed in Japan

『ぼうさい』夏号は平成24年6月末発行の予定です。

編集後記

東日本大震災から1年が経過した。この1年は非常に長く感じた。震災を受け、社会の中で、災害に対する様々な見直しが行われている。防災については、東日本大震災の教訓から今後の災害に対して、いかに備えるかという

検討が進んでいる。社会全体が次の災害への備えに向けて動き出している。今後、大切になってくるのは、この動きをいかに継続できるかだと思う。

震災の時に、まず家族と連絡を取ろうとした人は多いと思う。そこで、今回は家族単位の防災についての特集を組んだ。まず、大切な人との連絡手段の確保、ここから始めていきたい。

『ぼうさい』購読のご案内

本誌の購読をご希望の方は、(株)ジャパンジャーナルまでお申し込みください。お申し込みは電話、FAX、メールにて承ります。
TEL: 03-5298-2111 FAX: 03-5298-2112
E-MAIL: bousai@japanjournal.jp
1冊 300円 (税込み)
※送料別途: 1～5冊 80円
5冊以上 160円または実費

ご意見・ご感想を、内閣府 (防災担当) 広報誌「ぼうさい」担当宛で、はがき、FAX、メールにてお寄せください。

東日本大震災 復興支援の情報サイト



政府のホームページでは、東日本大震災により被災された方、そして支援をお考えの方に役立つ情報を掲載しています。

日本政府を通じた東日本大震災義援金受付

義援金の受付手続きを案内しています。
皆様から寄せられた義援金は、地方公共団体を通じて、被災者の方々へ届けられます。

受付期間

平成23年4月5日(火)から平成24年3月31日(土)まで

受付手続き

全国の銀行、信用金庫の本店又は支店、郵便局の指定口座にお振込み下さい。口座名義はいずれの銀行も「東日本大震災義援金政府窓口」です。

<http://www.cao.go.jp/gienkin/>

ハンドブック

被災された方に役立つ情報を集めた各種冊子がダウンロードできます。

「仮設住宅暮らしの手引き」

仮設住宅で暮らす方のための、心のケアなどの生活情報

「生活支援ハンドブック」

健康や生活再建に向けた大切な情報

「税制支援ハンドブック」

被災された方の支援やご負担軽減のための「税制」解説

「生活再建・事業再建ハンドブック」

生活、事業の再建に向けた様々な政策解説

<http://www.kantei.go.jp/saigai/handbook/>

復興アクション

「復興アクション」とは、風評に惑わされない、過度な自粛はやめる、節電を心がけるなど、被災地のために、普段の暮らしの中で私達ができる取り組みです。様々な活動レポートや応援ツイートがご覧いただけるほか、復興アクションによる応援の輪を広げるためのバナーやロゴなどの応援ツールもダウンロードが可能です。

被災地のために、日本のために。



<http://fukko.gov-online.go.jp/>

「復旧・復興支援制度情報」のページ

国や地方公共団体が東日本大震災の復旧・復興のために整備している支援制度の検索サイトです。様々な支援制度を横断的に検索し、条件にあったものをすばやく探すことができます。県外避難している方からの相談にも、県名や市町村名から簡単に調べてご案内いただけます。

個人向け、事業者向け、それぞれの最新支援制度情報が確認でき、フリーキーワード、支援の種類やカテゴリ選択による絞り込みも可能です。

<http://www.r-assistance.go.jp/>